

第三者評価に基づいた建設会社の CSR 成績分析

Analysis of the CSR performance of construction companies based on third-party evaluation

北海道大学工学部環境社会工学科 ○学生員 中村 純 (Jun Nakamura)
北海道大学大学院工学研究院 正会員 ヘンリー・マイケル (Michael Henry)

1. 背景と目的

CSR とは Corporate Social Responsibility の頭文字をとった言葉であり、日本語では『企業の社会的責任』と訳される。CSR 活動は企業が利益を追求すること以外で高い倫理観を元に自らの社会的責任を認識し、また様々な企業を取り巻くステークホルダーの期待に応えるべく行う活動である。持続可能な社会の発展に向けて企業は所得や雇用の創出など、経済社会の発展になくてはならない存在であるとともに、社会や環境に与える影響が大きいことを認識し、CSR 活動を率先して行う必要がある¹⁾。近年CSR活動は日本の企業には重要な要素となりつつあり、近年はこれらの企業の非財務的価値も財務的な価値とともに企業評価に大きく影響を与えるようになってきている²⁾。

建設産業は日本の経済、社会、環境に大きな影響を与える存在であり、そのため課題もまだまだ多くあるのが現状である。そんな中 CSR が企業としての重要な要素となってきたのは建設会社でも同様であり CSR 活動の重要性を認識しなければならない。近年では建設産業でも CSR に関する取り組みは増えてきてはいるものの、現状としての建設会社の CSR に関する報告は他産業と比べるとまだまだ多くはない²⁾。

本研究では東洋経済社による CSR ランキングと言う第三者の評価を参考にして建設産業の CSR 活動を分析し現状を明確にすることを目的とする。

2. 分析方法

分析方法としては、まず第三者の評価である東洋経済 CSR ランキング³⁾ というデータを利用した。東洋経済 CSR ランキングは日本の企業を東洋経済社の CSR 調査を基に評価したランキングである。このランキングの評価方法としては「人材活用」「環境」「企業統治」「社会性」の4分野で評価した。

このデータを利用するにあたり、まず 2008 年から 2015 年までの CSR ランキング上位 200 位までの各ポイント、総合ポイント、総合ランキングをデータベース化した。次に四年以上 200 位以内にランクインしている建設会社の各ポイントとランキングをグラフ化し傾向を分析した。さらに 2015 年の CSR ランキングの 200 位以内の会社の従業員数、総資産を各会社のホームページから調べて関連性を分析した。

3. 分析結果

3.1 CSR 全体の推移と現状

東洋経済 CSR ランキングをもとに 2008 年から 2015 年までの 200 位以内の企業を見ると全体として総合得点は上昇している。これは CSR に関しての東洋経済の基準では日本の企業の CSR 活動は進んできていると言える。特に雇用の分野の得点が最も大きく上昇している。他の部門も年毎に上下しているが全体としてみると上昇している。

表-1 CSR ランキング 2015 年 TOP5 と建設会社平均ポイントと全体平均の差

順位	企業名	人材活用	環境	企業統治 +社会性	財務	総合得点
1	富士フイルムホールディングス (パルプ・紙/化学)	98.7	94.4	97.4	285.9	576.4
2	NTT ドコモ (情報・通信業)	92.1	90.1	95.5	293.5	571.2
3	デンソー (輸送用機器)	89.5	97.2	94.2	287.0	567.9
4	富士ゼロックス (電気機器/精密機械)	92.1	94.4	93.5	285.9	565.9
5	日産自動車 (輸送用機器)	97.4	100.0	92.2	275.1	564.7
5	コマツ (機械)	96.1	93.0	94.2	281.4	564.7
76	清水建設	81.6	97.2	95.5	248.3	522.6
79	大成建設	84.2	97.2	95.5	248.3	521.3
99	大林組	77.6	93.0	96.1	249.2	576.4
137	鹿島	77.6	91.5	82.5	249.0	500.6
179	前田建設工業	75.0	88.7	94.8	231.5	490.0
-	建設業 5 社平均	79.2	93.5	91.7	245.7	515.1
-	全体平均	83.6	86.5	89.0	258.0	517.1
-	建設業 5 社平均と全体平均の差	-4.4	7.0	2.7	-12.4	-7.0

2015 年の総合ポイント上位 5 社を表-1 に示す。これらの企業は CSR ランキングにおいて以前から上位を占める企業が多く CSR 活動が充実している。また昨年順位 11 位のデンソーや 15 位のコマツなどが TOP5 にランクインするなど大幅な順位上昇も見られる。

3.2 建設会社の成績

建設会社の 200 位以内にランクインしている企業数を 2008 年から見ていくと 2008 年で 3 社、2009 年から 2011

年で 4 社、2012 年で 6 社、2013 年から 2015 年までは 5 社となっている。少しずつ建設会社の数も増えてきているが大幅な増加は見られない。またランクインしている会社も決まった会社である。

200 位以内の建設会社から長くランクインし続けている会社の総合ポイントとランキングを図-1 に示す。大林組と大成建設は大幅な変化は見られないが、鹿島は減少する傾向にあり、清水建設はランクインした 2009 年以降、2011 年に大幅に順位を上げたものの、そこから大きな変化は見られない。全体として近年では建設会社の総合ポイントとしては上昇しているもののランキングはあまり変化がないことがわかる。

次に表-1 より建設会社 5 社の 2015 年の各平均ポイントと 200 位以内にランクインしている会社の平均ポイントとの差を比べる。CSR 活動としては環境の得点で平均を大きく上回っているが雇用の得点は平均を下回っている。部門別ランキングを見ても環境部門で 5 位に清水建設、大成建設がランクインし、29 位に大林組がランクインしており、環境部門での成績は良いと言える。

3.3 企業特性と CSR ランキングとの関連

2015 年各企業のランキングと従業員数と総資産の関連を建設会社中心に見ると図-2 のようになる。建設会社とランキングが同じ会社を見ると従業員数の多い会社が多いが総資産は少ない会社の方が多く見られる。CSR ランキングは従業員数や総資産だけで関連性をつけることは難しく、企業の業種形態なども考慮する必要があると考えられる。

4. まとめ

建設会社の総合ポイントは上昇しているもののランキングはあまり上がっていない。CSR 活動への取り組みは進んではいないが他業種では CSR 活動に関してさらに得点を上げていることがわかった。200 位以内のランクイン数を見ても企業はほとんど変わらず、最大 6 社がランクインしたが現状としては 5 社となり大幅な増加は見られない。その中でも建設産業では環境への影響が大きいのか CSR 活動に関しても環境部門が進んでおり得点は平均と比べても高い数値を示している。またランキングは、従業員数、総資産の会社の規模を表す指標では決まらず、業種の違いなどの別の要素の影響も大きいと考えられる。これらを踏まえ、業種の違いなどの新たな要因を加えた検討を行うことにより、さらに建設会社の CSR 活動の現状が分析できると考えられる。

参考文献

- 1) 日本経済団体連合会（企業行動憲章）
<http://www.keidanren.or.jp/policy/csr.html>
- 2) 建設企業における CSR 評価制度および当該評価制度データベースの活用方策に関する調査報告書（平成 18 年度）
- 3) 東洋経済 CSR ランキング
<http://www.toyokeyzai.net/csr/>

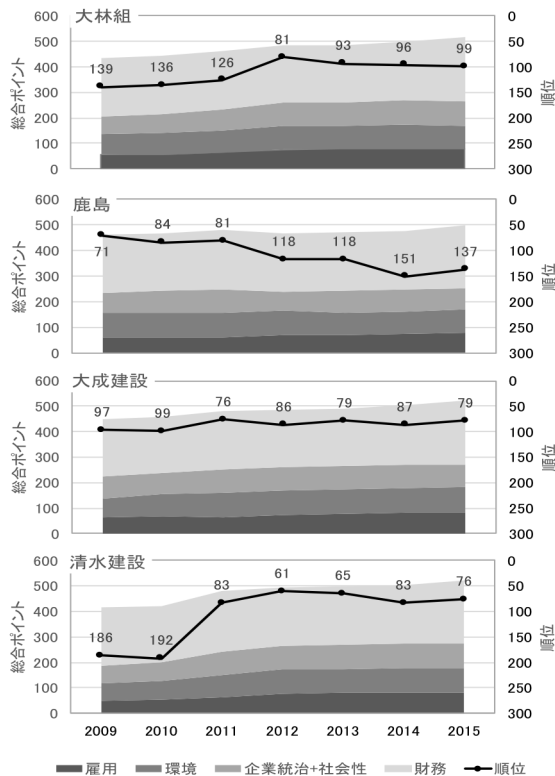


図-1 建設会社 4 社の推移

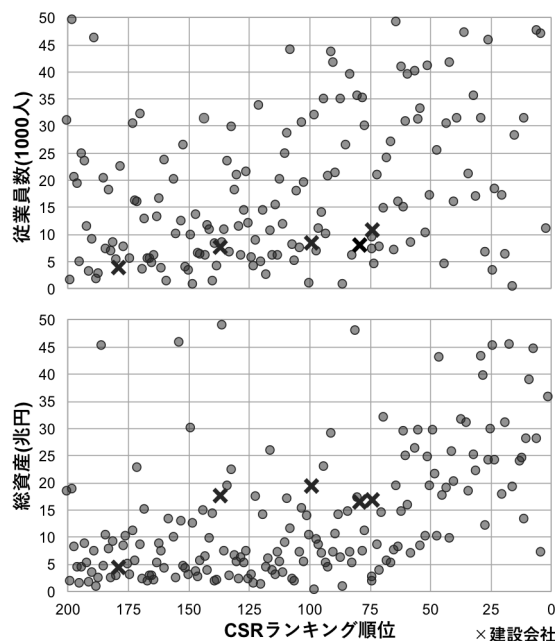


図-2 企業特性と CSR ランキングの関連
(上：従業員数、下：総資産)